

令和7年度 技術監理局X方針について

■ 局区X方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 技術監理局X方針について

(1)課題数 全5件

課題領域	Aレベル	Bレベル	Cレベル
課題数	1件	4件	0件
政策分野	契約事務	公共工事、契約事務	—

Aレベル……行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・Cレベル…政策的な変革課題(Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等)

(2)主な課題・取組内容等

・課題A 契約事務における競争性と透明性のさらなる向上(資料1のP3)

○R4年度に随意契約を行った100万円超の業務委託契約について、プロポーザル等の競争性のある契約が占める割合を15%から R8 年度までに30%とすることを目標として、R5年度から「随意契約の見直し」に取り組んでおり、R6 年度の実績は26%であった。引き続き、フォローアップを行う。(資料2)

○このほか、事業者が参入しやすい仕組みづくりとして、R7 年度については、以下の取組を行う。

- ・一定額以上のすべての委託契約結果を HP 上で公開する。
- ・入札等への参入を促すため、事業者向け契約 HP をわかりやすい内容に再構成する。

・課題B 働き方改革・生産性向上に実践的に取り組む地元建設業者の拡大(資料1の P5)

- 人手不足対策として、ICT 施工や建設現場の DX 化などの導入を促しているが、効果などの理解不足から限定的な実施にとどまるため、さらなる働きかけが必要である。
- そのため、R7年度については、以下の取組みを行う。
 - ・働き方改革や生産性向上で成果を上げている地元事業者の先進事例を収集する。
 - ・モデルとなるリーディングカンパニーを広く紹介し、ヨコ展開を図る。

・課題B 持続可能なインフラマネジメント(資料1の P8)

- 平成28年に「北九州市公共施設マネジメント基本計画(社会インフラ版)」を策定し、施設の更新・管理に取り組んできたが、今後老朽化施設が急速に増加するため、将来に渡って財政負担を軽減する対策が必要である。
- そのため、R7年度については、以下の方向性を新たに盛り込むこととし、基本計画を今年度中に改定する。
 - ・利用実態や重要度に応じた管理水準の見直しを行う。
 - ・総額を抑制する予防保全型維持管理へ、期限を設けて移行する実行計画を定める。
 - ・更新時期を迎える施設について、利用実態や重要度に応じた集約・廃止の検討を行う。
 - ・人材育成や組織体制の強化に加え、新技術の活用や民間活力の導入を促進する。